

六 日葡通商航海条約締結交渉開始方ノ件 二八二 二八三

界ハ茲暫クハ渾沌タル有様ニシテ何日平穩ニ歸ス可キヤ計リ知ル可カラズ從テ条約締結交渉再開ノ件ハ急ニ運バザルベシ右念ノ為

二八二 十一月七日 在西南広沢公使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

葡国内閣更迭ノ件

第七八号 (十一月九日接受)

葡国内閣復又更迭シ「マイヤ、ピント」(Mata Pinto)氏十月四日新内閣總理大臣ニ任セラレ「ヴェイガ、シモエス」(Veiga Simoes)氏依然外務大臣タリ

二八三 十一月九日 在西南広沢公使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

日葡条約締結交渉再開方ヲ葡国政府ニ申入レ

三〇四

同政府ヨリ同意ノ旨回答アリタル件

第七九号 (十一月十一日接受)

本年九月三日付通総機密第一号ニ関シ当府駐葡国代理公使ヲ介シ同国政府ヘ申入レタル処葡国政府ハ日葡兩國間ノ關係ヲ密接ナラシムルコトニ最重キヲ置クヲ以テ交誼ノ營テ変リタルコトナキ兩國ノ久シク希望シ且葡國ノ最重視スル日葡間ノ外交及經濟關係ノ拡張ヲ確保スベキ通商条約ノ締結ヲ日本政府ニ於テ希望セラルコトヲ承知スルハ最満足トスル所ニ有之通商条約ノ商議ヲ容易ナラシムベキ葡國新關稅率ハ議會開會後第一着ニ附議セラルベキ問題ノ一ナルヲ以テ近ク其通過ヲ見ルベキモ今ヨリ帝國政府ノ提案ヲ承知スルコトハ葡國政府ノ大ニ欣幸トスル所ニ有之旨外務大臣ヨリ申越タル旨同国代理公使ヨリ回答アリタリ

事項七 極東露領沿海ニ於ケル漁業關係雜件

二八四 二月二十六日 湯地福井県知事ヨリ
内田外務大臣、床次内務大臣、
各府県庁長官宛

浦潮漁業庁長官ノ対邦人反感説ニ関スル漁業

關係者ノ談話報告ノ件

高秘甲第一九八二号

大正十年二月二十六日

福井県知事 湯地 幸平(印)

外務大臣伯爵 内田 康哉殿

内務大臣 床次 竹二郎殿

神奈川、兵庫、長崎、栃木、大阪、北海道、京都、長野、

福岡、富山、警視庁ノ各府県庁長官殿

浦塩漁業庁長官ノ対邦人反感説ニ関スル件

浦塩漁業庁長官「パンテレフ」ノ執行振等ニ関シ最近浦塩ヨリ帰来シタル漁業關係者ノ談話左記ノ通りニ有之御参考迄ニ及申(通)報候也

左記

七 極東露領沿海ニ於ケル漁業關係雜件 二八四

三〇五

從來浦塩漁業庁長官トシテ「コンスタンチン、ラウロフ」(帝政派)在任セシカ同庁内ハ帝政、革命ノ兩派ニ分レ到底融和ノ見込ナキ為同人ハ客年六月頃職ヲ辞シ本邦ニ渡来シ目下東京ニ於テ英露字雜誌「極東」ヲ經營セリ而シテ之カ後任トシテハ曩ニ神奈川県ニ於テ退去処分ヲ受ケ其後上海ニ在リシ「パンテレフ」(革命派)就職セシカ同人ハ本邦退去ヲ命セラレタル關係上邦人ニ好感ヲ有セス会々本邦漁業者カ別紙五ヶ条ノ提議ニ関シ同人ノ手ヲ煩ハス事トナリシヲ以テ同人ハ同提議ヲ殊更ニ重大視シ知多政府ニ移牒セシ為事態頗ル困難トナリ例年日露漁業協約ニ依リ浦塩ニ開催セラルル漁区入札期日ハ本年ハ去ル本月十六、十八日両日ナリシカ前記提議ノ未解決ナル為遂ニ邦人漁業者ヲシテ之ニ参加スルノ機会ヲ逸セシメタリ

本問題ニ関シテハ本邦漁業者間ニ於テモ相結束シテ之ニ対スル露国当局者ノ回答ニ接スル迄ハ浦塩渡航ヲ見合ス事ニ決議セシカ後記五名ノ漁業者ハ此ノ決議ヲ無視シ密ニ前便

鳳山丸ニテ渡浦シ前記入札ニ参加セント企画中同地帝国領事館ノ知ル処トナリ其ノ不徳ヲ叱責セラレ遂ニ入札参加ヲ断念セシ趣ナリ尚昨年ノ漁期ニ於ケル邦人ノ經營セシ漁区ハ勘察加ノ沿岸ニ約四百箇所ヲ算シ之カ租借料ノ最高額ハ一箇所ニ付露貨五十一万億留ナリ而シテ其ノ支払ハ留ヲ以テ行ハレシカ本年ヨリ之ヲ金貨ニ換算スル旨浦塩漁業庁ヨリ帝国外務省ヲ経テ邦人漁業者ニ伝達サレシカ斯テハ非常ノ高価トナルヲ以テ之ヲ緩和シ且ツ從來河川入江ノ漁業權ハ邦人ニ認メサリシカ本年ヨリ平等ニ之カ權利ヲ得ントシテ前記ノ如キ五ケ条ヲ提議セシ趣ナリ

密ニ入札ニ参加セントセシ漁業者

函館 広瀬才一

同 臼杵久藏

岩瀬(富山)竹内公正

函館 石垣秀助

同 生方信秀

一漁区貸与ニ依テ納入スル保証金及租借料ヲ一定ノ銀行ニ供託シ置キ日露合同シテ之ヲ監督シ漁期終了後ニ於テ之ヲ処分スル事

二漁区落札最低額ヲ指示スルコト

三從來在日本露国領事ニ於テ処置セシ漁業船ノ漁場直航認可權ヲ帝国官憲ニ移譲スル事

四日露合同所有船ノ漁場出入ヲ認可スル事及不落札漁場ノ設備ヲ他ノ漁場ニ移シ得ル事

五河川及入江ノ漁業權ヲ日本人ニモ認ムル事

以上

二八五 三月十日

小島露領水産組合組長ヨリ
内田外務大臣山本農商務大臣宛

露領漁区貸下入札ヲ日本政府ニ於テ施行方請願ノ件

発第一九七号

(三月十日接受)

大正十年三月十日

露領水産組合組長 小島 源三郎(印)

外務大臣伯爵 内田 康哉殿

農商務大臣男爵 山本 達雄殿

最近露領沿海州並ニ堪察加州ノ政情不安定ニシテ漁業經營上甚シク不安ナルノ実況ニ鑑ミ自衛上已ムヲ得ス今回開会

致候組合会ニ於テ本年三月露国当局カ施行スヘキ前記方面

漁区貸下入札ニハ一同参加セサルコトニ決議致候処右不参加ハ畢竟營業ノ不安ナルニ基因致スモノニ有之候得共當業者ハ是カ為ニ各自營業ヲ休止スルコト能ハス候ニ付テハ營業保護ノ御趣旨ニ於テ今年ニ限り我政府カ露国政府ニ代リ日露両國人ニ對シ本年發表相成候露領沿岸漁区ノ貸下入札ヲ急速御施行相成様特ニ御詮議相仰度請願仕候

追而若シ前記請願御詮議相叶ハサル節ニハ当組合員ハ營業ノ自衛上止ムヲ得ス我政府ノ充分ナル御保護ノ下ニ自由出漁ヲ致スコトト相成ルヘキ儀ト被存候ニ付テハ右ノ場合ニ於テハ左記ノ個条御聴許相成度請願仕候

左記

一、本邦漁業者ノ經營スル漁場方面ニ前年ニ比シ時季ヲ早メ且一層頻繁ニ軍艦ノ巡航其他充分ナル御保護ヲ仰キ度キコト

二、右ノ要点ニ基キ次ノ通りノ時期ニ帝国軍艦ノ巡航ヲ請願ス

沿海州方面 四月上旬

西堪察加(イ)ボリシュレック以南 五月下旬

七 極東露領沿海ニ於ケル漁業關係雜件 二八六

(四)同 以北 六月中旬

東堪察加 六月下旬

(但シ北部ヨリ南下スルコト)

「オホツク」方面 六月上旬

三、營業スル漁場ニ對シ政府ヨリ相当借区料ノ上納ヲ命セラルル場合ニハ其金額ヲ最モ低減セラレ度事

四、出漁ニ要スル航海証明書、其他ノ証明書ハ我官憲ニ於テ發給セラレ度事

五、漁場行外国旅券ニハ在留露国領事ノ査証ヲ要セサル事
六、塩陸揚証明及原産地証明ハ内地我官憲若クハ当組合ニ於テ為スコト

尚沿海州方面ニ於ケル漁業ハ主トシテ鱈蟹ニシテ漁業着手ハ早キハ三月中旬ヨリ遅クトモ四月始メニ開始スルヲ以テ前掲各項ノ請願ニ關シテハ特ニ至急御詮議相仰度申添候
以上

二八六 三月十一日

小島露領水産組合組長ヨリ
田中通商局長宛

露領水産組合員經營漁区ヲ露國人ガ競落シタル場合ニ對スル對抗手段ニ付配慮方請願ノ件

發第二一〇号

(三月十二日接受)

大正十年三月十一日

露領水産組合組長 小島 源三郎 (印)

外務省通商局長 田中 都吉殿

組合員經營漁区ヲ競落シタル露人ニ對スル出漁準

備ニ關スル請願

本年三月浦港ニ於テ施行サルヘキ露領沿岸漁区貸下入札ニ
關シテハ本月十日付發第一九七号ヲ以テ請願ノ次第ノ通り
当組合員ハ一同是ニ参加セサルコトニ決議致候ヲ以テ若右
入札カ果シテ実行セラレ自然露国人ノミ参加致候結果或ハ
我漁業者ノ競争スル者ナキヲ機トシ彼等ハ当組合員ノ經營
セントスル漁区ヲ競落スルコトナキヲ保シ難キコトト被存
候而シテ今日ノ狀況ニ於テハ仮令露国漁業者ハ右ノ如キ漁
区ヲ競落スルモ漁業經營ニ要スル旅行券ノ發給手續ハ申ス
迄モ無之其他物資ノ調弁、傭給、労働者ノ雇入其他各般ノ
出漁準備ハ凡テ本邦人ノ手ヲ經テ是カ供給ヲ仰カサルヘカ
ラサル実況ニ有之候ニ付テハ此種露人ニ對シテハ前記出漁
準備ニ支障ヲ来サシメ以テ我當業者ノ利益ヲ侵害シ得サル
様相当方法ヲ講スル必要有之事ト存候右ハ当組合員カ入札

同氏ハ本件ニ關シ何等確定的公報ヲ入手セサルモ予テ右新
聞記事ノ如キ情報ニ接シ居リ又斯ノ如キ代官任命ハ堪察加
カ勞農政府所管ニ確定シタル今日理ノ当然ナルヘシト思考
ス猶右代官トシテ当地人物中ヨリ任命アルヘシトノ風説ア
リタルモ未タ其真否ニ關シ知ルトコロナキ旨ヲ答ヘタル趣
為御參考此段申進候

敬具

二八八 四月十二日

小島露領水産組合組長ヨリ
田中通商局長宛

露領水産組合評議員会ニ於テ申合セタル大正

十年度露領出漁手續進達ノ件

附屬書 大正十年露領出漁手續

發第三一〇号

大正十年四月十二日

露領水産組合組長 小島 源三郎 (印)

外務省通商局長 田中 都吉殿

大正十年四月評議員会申合事項進達ノ件

今回開会ノ当組合評議員会ニ於テ申合セ候大正十年度露領
出漁手續別紙ヲ以テ進達仕候

七 極東露領沿海ニ於ケル漁業關係雜件 二八八

敬具

不参加ノ為露人カ我當業者ノ利益侵害ヲ防止スル一手段ト
存シ候間以上ノ趣旨ニ基キ可然御高配相仰度此段請願仕候
也

敬具

二八七 三月二十四日

在浦潮菊池總領事ヨリ
内田外務大臣宛

勞農政府勸察加代官任命說ニ關スル件

公第六〇号

(四月四日接受)

大正十年三月二十四日

在浦潮斯德總領事 菊池 義郎 (印)

外務大臣伯爵 内田 康哉殿

本月二十二日發行夕刊「ウエチェル」ハ信用スヘキ筋ヨ
リ出テタル情報トシテ勞農政府ハ近日堪察加代官ヲ任命シ
同代官ヲシテ管内漁場貸下ニ關シ日本及露国漁業者ト交渉
ノ為浦潮ヘ派遣スヘク同代官着浦ノ上ハ堪察加漁場特別代
官所ヲ設置スヘク而シテ現在沿海州漁業庁ハ極東共和国領
土ニ於ケル漁区及蟹漁区ノミ管理スヘキ旨ヲ報道シ居ルヲ
以テ本官ハ島田副領事ヲシテ漁業協議會會長「パンテレー
エフ」ヲ訪問シ右新聞記事ニ關スル真相ヲ質サシメタル処

(附屬書)

大正十年露領出漁手續

第一条 大正十年出漁セムトスル者ハ組合ヨリ出漁証明書
ノ交付ヲ受クヘシ

前項出漁証明書ヲ有セサルモノハ出漁スルコトヲ得ス
第二条 出漁証明書ノ交付ヲ受ケタルモノハ漁区番号、名
称、位置、出漁予定月日、帆、汽船名、噸数、出港
名、帆船々員数及漁夫数ヲ直ニ組合ニ届出ツヘシ

第三条 本年出漁シ得ヘキ漁区ハ左ノ如シ

一、本年借区期間中ノ漁区

二、大正九年満期ノ漁区

第四条 前条漁区ヲ經營セムトスル者ハ当該漁区借区料其
他ノ公課金ヲ組合ニ納付スヘシ

第五条 借区料ハ借区期間中ノ漁区及本年満期漁区共左ノ
区分ニ依リ之ヲ徴取ス

一、鮭、鱒及鯡漁区ハ各漁区最近三ケ年間ノ漁獲高ヲ
平均シタルモノヲ以テ標準額トシ百石ニ付金四拾六
円ノ割合ニ依リ之ヲ定メ算出上生シタル円位未滿ノ
端數ハ之ヲ切捨テ百石当尾數換算率ハ現行組合ノ方

七 極東露領沿海ニ於ケル漁業關係雜件 二八八

法ニ準拠ス但シ不經營ノ為漁獲高不明ノ場合ハ左ノ区分ニ依リ之カ標準額又ハ借区料ヲ定ム

イ 二ケ年經營ノモノハ之ヲ二分シタルモノ

ロ 一ケ年經營ノモノハ其額トス

ハ 三ケ年引続キ不明ノモノハ本条ニ依リ算出シタル隣接漁区ノ最モ低廉ナル借区料ニ依ル

二、蟹漁区ハ一漁区平均二千円トス

三、鱈漁区ハ一漁区平均六百円トス

参照 一石ヲ九布度一八トシ一布度約五錢ノ割合ヲ以テ算出ス

第六条 營業免狀料及伐木料ハ帝政時代ニ定メタル最モ低廉ナル税率ニ依ル

第七条 借区料ハ之ヲ二分シ上半期分ハ本年五月末日迄ニ、下半期分ハ同年十一月末日迄ニ組合ニ納入スヘシ依テ生シタル田位未滿ノ端數ハ前期ニ繰上ケ之ヲ徴収ス

其他公課金ハ上半期分納入ノ際其ノ全額ヲ同時ニ納入スヘシ

「オホツク」及西南区漁区中燒棄又ハ掠奪サレタル被

第十三条 右手続ニ依ル會計ハ別ニ帳簿ヲ設ケ之ヲ整理スルモノトス

營業免狀料 (明治四十三年)

三等 二〇〇人以上五〇〇人 七五〇留

四等 五〇人以上二〇〇人 二二五留

五等 一六人以上 五〇人 七五留

六等 一五人迄 一四留五〇哥

七等 九人迄 六留

伐木料 (一立方露間ニ付一留)

鯨漁区

建網料 一〇〇留

曳網 五〇留

以上

誓約書

一、本年出漁ニ付テハ今般主務官庁ヨリノ御命令ニ基キ制定セラレタル出漁ニ関スル各条項ヲ遵守スルハ勿論本年借区料下半期分ハ本年十一月末日迄ニ必ス組合ニ納入致スヘク万一右借区料ヲ納入致サザルトキハ組合ニ七 極東露領沿海ニ於ケル漁業關係雜件 二八九

三一〇

害漁区ノ借区料及其ノ他公課金ハ其全額ヲ本年十一月末日迄ニ納付スルコトヲ得

第八条 組合ハ前条借区料上半期分全額ヲ納入シタルモノ及「オホツク」並ニ西南区漁区中ノ被害者ニ對シ出漁証明書ヲ交付スルモノトス

第九条 借区期間中ノモノニシテ本年三月三日以前ニ露国支金庫ニ本年度借区料ヲ納付シタルモノハ其領收証又ハ納付シタルコトヲ証明シ得ル書類ヲ組合ニ提出シ前条出漁証明書ノ交付ヲ受クルコトヲ得但シ公課金ハ此際組合ニ納入スルコトヲ要ス

第十条 借区料下半期分納入ニ關シテハ別ニ定ムル様式ニ依ル誓約書ヲ上半期分納入ノ際組合ニ提出スヘシ本誓約書ノ提出ナキモノハ第八条出漁証明書ノ交付ヲ受クルコトヲ得ス

第十一条 借区料其他公課金ハ郵便為替又ハ組合ニ於テ確實ナリト認ムル銀行小切手ヲ以テ配達証明郵便ニ依リ組合ニ送付スヘシ

第十二条 徴収シタル借区料其ノ他公課金ハ朝鮮銀行又ハ北海道拓殖銀行ニ預託スルモノトス

於テ定メラルル制裁ニ服従スルコトヲ誓約ス

大正十年四月 日

組合員

二八九 四月十三日 小島露領水産組合組長ヨリ 内田外務大臣宛

極東露領沿海漁業借区料ヲ漁獲高稅ニ變更方

請願ノ件

附屬書一 借区料金建額ト漁獲高稅トノ比較表

二 漁業收支決算表

發第三九〇号

大正十年四月十三日

露領水産組合組長 小島 源三郎 (印)

外務大臣伯爵 内田 康哉殿

借区料ヲ收獲稅ニ變更方請願ニ關スル件

本年度露領漁区ニ對スル出漁經營ニ關シテハ今般閣議決定ニ基キ当組合ハ漁場へ出漁スル組合員ヨリ各借区料及公課金ヲ徴収スヘキ儀ニ有之候ニ付過般來当組合評議員会ニ於テ審議致候処大正八年度迄競落セシ漁区ノ借区料ハ其全期

間ヲ通シ大部分ハ露国支金庫ヘ納入済ニ有之唯大正九年度
競落ニカカル漁区即チ金建留ニ属スル分ノミ未納ト相成居
候ニ付今般組合ノ徴収スヘキ借区料ハ右ノ分及本年更新期
トナリタル漁区約六十五個所ニノミ適用シ得ル次第ニ候而
シテ本年漁業経営ニ際シテハ一般經濟界ノ打撃ヲ蒙リ漁獲
物価格安キカ為多大ノ損失ヲ免レサルヘク仮ニ二千八百石
漁獲予定ノ漁区一個所ニテモ現ニ壹万四千二百円ノ損害ヲ
見ルヘキ計算ト相成リ大正九年金建留ノ借区料ヲ納入スヘ
キ經營漁区ノ漁獲高拾万參千九百參拾八石ニ對シテハ其總
損失実ニ五拾貳万七千七百拾貳円ニ達スルノ見込ニシテ當業
者ハ是カ經營ニ苦慮致居リ候折柄若シ金留ノ借区料金八拾
八万貳千八百貳拾四留ヲ今般更ニ納入ヲ要スルトキハ當業
者ハ此上益々困憊ヲ加ヘ遂ニハ營業ヲ休止セサルヲ得サル
ノ悲境ニ陥ル事ナキカト懸念罷在リ候ニ付テハ予テ數年來
當組合カ要望致居リ候露国帝政時代ノ実施ニ係ル漁獲高稅
律ニ依リ右借区料ヲ定メ度候間當業者ノ実況御賢察ノ上特
ニ右様御詮議相仰度此段別紙借区料金建額ト漁獲稅トノ比
較表及漁業收支決算表相添ヘ此段右陳情仕候也
追而前記漁獲高稅ハ今次露国カ黒竜江漁業者ニ對シ制定

(附屬書二)

漁業收支決算表

一、金壹万四千七百七拾七円六拾錢也 決損金
但シ收獲貳千八百石ノ漁区一ヶ所ヲ標準トセリ
内訳
一、金貳万九千六百五拾五円也 收入金總額(別表ノ通)
一、金四万三千八百三拾貳円六拾錢也 支出金總額(同上)
差引金壹万四千七百七拾七円六拾錢也 決損金 以上

別 表

漁区一ヶ所經營收支予算書(大正十年四月評議員会)

支出ノ部

金額	科目	摘 要
九、六〇〇	〇〇	漁業用塩 塩八十斤入六千呎、四十八万斤 単価二円替
六〇〇	〇〇	同附帶費倉出、解、船内人夫賃(一呎十錢)
三、〇〇〇	〇〇	同運賃 六千呎漁場仕送り運賃(一呎五十錢)
一、九五〇	〇〇	雜貨運賃 六百五十個(一個三元ノ割)
六五〇	〇〇	從業者船主任以下漁夫 六十五人(一人二付十円宛)

セシ一布度五哥即チ我百石四十六円ヲ妥當ト存候間右申
添候

(附屬書一)

借区料金建ト布度稅率トノ比較

一、金八拾八万貳千八百貳拾円也 (金建留)
但シ自一九二〇年至一九二四年五年長期
自一九二〇年至一九二二年三年長期
一九二〇年短期
以上三口合計七十八ヶ所

借区料總額

(不經營漁区合計四十七ヶ所ヲ除ク、一留一円トス)

一、金四万七千八百拾壹円也

但シ同上漁区七十八ヶ所九年度実收獲高一〇三、九三
八石ニ對シ
(一布度五錢一石九布度一八トシ算出シタル)百石四
十六円ノ割合ヲ以テシタルモノ

差額金八拾參万五千拾參円 減

六、〇〇〇	〇〇	漁夫給料 漁夫六十人一人ニ付百円宛
一、二〇〇	〇〇	主任者給 食費トモ
八〇〇	〇〇	通訳給料 食費トモ
六〇〇	〇〇	網船頭給同
五〇〇	〇〇	大工給料同
四〇〇	〇〇	機関師給 食費トモ
九〇〇	〇〇	主任及專任者賞与
二一〇	〇〇	網船頭賞与
一、八〇〇	〇〇	漁夫九一
五〇〇	〇〇	交際費
五、一〇〇	〇〇	漁具補充費
一、五〇〇	〇〇	營繕費 漁舎及陸上作業材料補充費
八〇〇	〇〇	漁舟補充 毎年一隻宛補充スルモノト見做
一、八三〇	〇〇	薪炭費 石炭 二十五噸 三〇円 薪 三十敷 三六円 チン共
二〇〇	〇〇	医藥費
八〇〇	〇〇	番屋費 番屋費、網仕立賃金及雇人夫食費等
八〇〇	〇〇	諸雜費 旅費、通信費及雜費
一、二〇〇	〇〇	機械 機械補充費及屬具補充費並ニ消

八四六〇 保険料		耗品費
二、一六〇〇〇 白米費	見テ一円ニ付三十錢	往航保險金噸二万九千二百円ト
六四八〇〇 副食費	同上	漁夫六十人一人ニ付三十六円宛

合計金四万参千八百参拾貳円六拾錢也

以上

収入ノ部

一金二万二千四百円也 鱸三十九万二千尾売上金

但シ一尾目廻リ二百匁総量七万八千四百匁宛

此値段一円ニ付三貫五百匁ノ割

一金一万九千六百円也 鮭五万八千八百尾売上金

但シ一尾目廻リ五百匁総量二万九千四百匁宛

此値段一円ニ付一貫五百匁ノ割

計金四万二千円也

右ノ内控除金

一金二千八百四拾円也 仲買人口銭入目等(七分ノ割)

一金七千円也 鮭鱸雜貨積取運賃

一金六百五拾円也 漁夫切揚船賃

一金百七拾五円也 保険料 保険金額五万円三五ノ割

為御参考此段及報告候 敬具

(附屬書)

四月十五日発行浦潮新聞「ゴーロス、ロヂヌイ」記事ノ訳文

鯨其他海獣獵業

漁獵業協議会ハ市民「シユリゴフスキー」及「ヤークシエ

フ」ニ対シ「オホツク」海「聖コンスタンチン」灣ニ於テ

海驢以外哺乳海獣ヲ獵獲製造スルコトヲ許可セリ「アレク

サンドロフ」ヨリ出願シタル「オホツク」海及堪察加河ニ

於ケル同業許可願ハ出願者カ詳細ナル地域ヲ明示シ地方住

民ノ承認ニ關スル決議書ヲ提出スル迄之レカ詮議ヲ延期ス

ルコトトナレリ

漁業者「シャートフ」及「エーシポフ」ハ六年間「ジョル

トイ」岬「ナダチェフ」岬間及「チャジマ」岬「カラギン

スキー」島間堪察加水域漁業協約圏外ニ於テ捕鯨業ヲ営ミ

「ベチエウインスカヤ」灣ニ一根據地ヲ設置スルノ權利ヲ

得タリ

市民「ナンスベルグ」ニ対シ「タウイスカヤ」灣内ニ於テ

海豚及哺乳海獣獵獲及買入ノ權ヲ許与セリ

「ドウグルスキー」灣「クチム」河ニ於テモ市民「メー

一金千六百八拾円也 水揚、看貫、荷渡賃

差引金二万九千六百五十五円也 收入金総額

但シ右ハ総收穫二千八百石ヲ標準トセルモノナルニ依リ

鮭鱸平均百石ノ価格実収ハ金一千〇五十九円十錢也

二九〇 四月十九日 在浦潮菊池總領事ヨリ

内田外務大臣宛

露国人ノ海獣獵獲許可ニ關スル件

附屬書 四月十五日発行浦潮新聞記事訳文

公第九〇号

(四月二十三日接受)

大正十年四月十九日

在浦潮斯德總領事 菊池 義郎(印)

外務大臣伯爵 内田 康哉殿

本件ニ關シ本月十五日発行当地新聞「ゴーロス、ロヂヌ

イ」ニ別紙訳文ノ如キ記事アリタルヲ以テ島田副領事ヲシ

テ漁獵業協議會長「パンテレエフ」ニ就キ其真相ヲ質サ

シメタルコロ氏ハ昨年同協議会ニ於テ本件ニ關スル規程

ヲ定メ露国人ニ対シ河川港灣ニ根據地ヲ置キ漁業協約圏外

水域主トシテ領海外ニ於テ海獣獵獲ヲ許可スルコトナリ

大体別紙新聞記事ノ如ク詮議ヲ加ヘ居ル旨答ヘタル趣ニ候

リ」及「ラウロフ」ニ対シ同一ノ權利ヲ与ヘタリ

二九一 五月三日 小島露領水産組合組長ヨリ

田中通商局長宛

露領漁区ニ航海スル船舶ニ出漁証明書ヲ寫テ備

付方請願ノ件

附屬書 露領出漁証明書ノ雛形

發第四〇〇号 (五月四日接受)

大正十年五月三日

露領水産組合長 小島 源三郎(印)

外務省通商局長 田中 都吉殿

本年度露領漁区經營者ニ対シテハ本年四月二十一日付ヲ以

テ進達致セシ様式ニ依ル組合ヨリ發給ノ出漁証明書ヲ交付

ノ上該漁区經營承認ノ証トシテ各漁場ハ保管致ス儀ニ有之

候処罐詰工場ヲ有スル漁区其他汽船經營ノ漁区ニ在リテハ

第一送込船後尚ホ所要物資ノ積取輸送其他經營上数次汽船

ヲ差立ツル場合有之ルノミナス漁場切揚ノ際ハ各更ラニ

切揚船ヲ廻航セシムル必要有之リ此際ニ於テハ右船舶ハ經

営漁場ヘ赴クヘク何時ノ証明書ヲ有セサルヲ以テ当局御保

護ヲ受クルコト能ハサル事ト相成リ事業上掛念尠カラサル

儀ニ候ニ付テハ右船舶ノ証明トシテ当組合支部ニテ証明シタル別紙様式ノ出漁証明書ヲ各船舶ニ備付ケシムル様致度候間右御容認被成下度此段請願仕候也 敬具

(附屬書)

露領出漁証明書ノ雛形

露領出漁証明書				
区分	漁区番号	漁区名称	漁区位置	租借料
第 号				留
				租借者又ハ經營者氏名

右ハ当組合員ニシテ組合ニ於テ制定シタル大正十年露領出漁手續ヲ遵守シ前記漁区ノ經營ヲ為ス者ニ付本証明書ヲ交付ス
大正十年 月 日
露領水産組合組長 小島 源三郎

右ハ原本ト相違無之候也

露領水産組合

支部(印)

大正十年 月 日

二九二 五月四日

田中商務省通商局長
村上農商務省水産局長
村大蔵省主税局長宛

日露漁業協約ニ基ク露領沿海漁業ニ対スル日

本政府ノ方針ニ関スル件

通一機密送第四六号

両三年来露国政情ノ紛糾ニ伴ヒ日露漁業協約ニ基ク西伯利亞沿岸ノ我漁業權ハ其ノ安定ヲ害セラレ我漁業者ノ不利ヲ被ムルコト少カラサルヲ以テ帝國政府ハ協約ニ基ク既得ノ權利擁護ノ趣旨ヲ以テ曩ニ我在外官憲ヲシテ浦塩ニ於ケル政權代表者ニ対シ交渉セシメシ処在再數句ヲ經過セル後纔ニ回答スル処アリタルモ其ノ態度ハ本問題ヲ我駐兵及軍事占領並勞農政府承認等ニ関連セシメントスルニ在ルヲ以テ解決ノ誠意アルモノト認メ難キノミナラズ其後ノ事態ハ益將來ヲ憂慮セシムルモノアリ殊ニ勘察加方面ニ付テハ此際勞農政府ノ直轄ニ歸シタル口実ノ下ニ其ノ責任ヲ回避シ我既得ノ權利ニ対シ何等尊重ノ意ヲ示サザルガ如キハ共ニ漁業協約ノ存在ヲ無視シタル不当ノ処置ニ有之又一面ニ於テ本年度漁業季切迫ノ折柄露国政權者トノ交渉妥結ノ日ヲ俟ツヲ許サザル事情アルヲ以テ帝國政府トシテハ不得已機宜ノ便法トシテ(一)本年借区期間中ノ漁区(二)大正九年満期ノ漁区ニ対シ我當業者ガ本年度漁業ノ經營ニ当ルコトヲ容認ス

類ノ意義薄弱ナルベキニ付テハ日本政府ト同意見ヲ有ス加之彼等ガ国民ヲ代表セズ又政府ヨリ何等權限ヲ委任セラレザルニ拘ラズ外交官若ハ領事官ト称シ居ルハ一ノ罪ヲ犯シ居ルモノト認メ居レリ」云々ト有之露国領事ニ対スル御参考迄此義申添候

二九三 五月十二日

田中通商局長ヨリ
村上農商務省水産局長
小島露領水産組合組長 各宛

露国ツェントロ、ソユーズ及極東露人事業ニ

対スル浦潮新聞論評ニ関スル件

附屬書 右論評訳文

通一合送第七六五号

最近着浦潮発刊露字新聞ニ露国「ツェントロ、ソユーズ」ノ行動ニ関スル記事有之候ニ付別紙写ノ通り訳出致候条御参考迄右訳文茲ニ及御送付候也

註 「ツェントロ、ソユーズ」(Centrosyus)ヲ大英百科辭典ハCentral Union of Consumers Societiesト訳シアリ

(附屬書)

ツェントロ、ソユーズト極東露人事業ニ対スル浦潮新聞ノ論評訳文(緒方領事訳)

昨年来我当局者並ニ漁業者カ疑惑ヲ懷キ居タル露国「ツェントロ、ソユーズ」ノ行動ニ関シ近着浦潮発刊右党新聞「ゴロース、ローヂヌイ」紙ニ記載スル所アリ右ハ同組合ノ横暴ナル態度ヲ非難セルモノニシテ昨年ノ漁区競売ニ際シ露国官憲ト同組合間ニ如何ナル密契アリタルカヲ略ホ推知スルヲ得ヘケレハ参考ノ為左ニ之ヲ訳出スヘシ

「ツェントロ、ソユーズ」ト極東露人事業

昨年漁季中「ツェントロ、ソユーズ」ハ政府ヨリ勘察加西海岸ノ最モ有望ナル数個ノ大漁区ヲ租借シ同時ニ漁区設備費トシテ莫大ノ資金ヲ借受ケタリ而シテ糧餉省ト多量ノ魚類納入ニ関スル契約ヲ締結セリ

右ハ「ツェントロ、ソユーズ」ノ事務拡張ト「コーペラチープ」ノ事業奨励ノ必要アリタルト將又其他種々ノ重要ナル理由アリタルヨリ実現スルニ至リタルモノナリ前記ノ事実ヨリ考フルニ政府ハ「ツェントロ、ソユーズ」ノ企図ヲ歡迎シタルモノノ如ク又多数ノ諸官庁モ「ツェントロ、ソユーズ」ノ約束履行ヲ確信シタリシナリ故ニ官庁ニ於テハ同組合カ所要ノ製魚ヲ必ス供給スルモノト信シ別ニ過剩製魚ノ仕向先ニ当惑シ居タル他ノ誠実ナル個人漁業

具備シ得ル將又独特ノ行動ヲナスニ有利ナル状態ニアルモノニシテ天然ノ国民の富源ヲ投機的事業ニ濫用シ以テ其ノ矛盾セル目的ヲ以テ他国ノ經濟的勢力ヲ助長セシムルカ如キ行動ヲナスニ於テハ其ノ行動ハ之ヲ名付クルニ「スペキユレーション」以上猶ホ強キ意味ノ言葉ヲ以テセサルヘカラス日本人ハ「ツェントロ、ソユーズ」ヲ目シテ半官的ノモノト為シ居ルカ右ハ尤モノ次第ニシテ千九百十七年ノ漁業協約違反カ此種機關ノ提議ニヨリテ行ハレ而シテ現行協約ニ反シテ日本人ノ權利ヲ一層拡張セシムル原因ヲ与ヘタルナリ

固ヨリ吾人ハ此一事実ニ就テノミ日本政府ノ漁業問題ニ関スル幾多ノ文書ヲ指摘シ能ハサルモ斯ノ如キ先例ヲ作リタルハ「ツェントロ、ソユーズ」ナルコトヲ挙示セサルヘカラス若シ夫レ個人の商会ニシテ斯ノ如キ行動ヲ為シ以テ其ノ罪ヲ問ハレタリトセンカ政府ハ必スヤ之ニ一切ノ損害ヲ弁償セシムヘキハ言ヲ俟タス

然ルニ「ツェントロ、ソユーズ」ハ糧餉省ト魚類其他（塩及日本軍ノ為メ同省ヨリ融通シタル肉干布度ノ返還）納入ニ関スル諸契約及各種義務ノ履行ニ付何等ノ手段ヲ講シ居

者トハ契約ヲ締結セサリシナリ尤モ當時ハ何人モ同組合ノ漁業上ノ失敗ニ付キ予見シ得サリシハ勿論トス

然ルニ「ツェントロ、ソユーズ」ハ其租借漁区ヲ經營セスシテ日本人（堤商会）ニ譲渡セリ是レ漁業協約違反ナリ何トナレハ外国臣民ニハ河口ニ於ケル漁撈ヲ禁止シアレバナリ「ツェントロ、ソユーズ」カ日本人ニ其ノ漁場ヲ譲渡シタル事実ハ漁業庁トノ契約ニ違反シ国庫ヲシテ不利益ノ取引即チ政府其ノ者ニ製魚供給ノ義務ヲ負ハシムルニ至レリ漁区ノ租借權ヲ一定ノ報酬ニテ日本人ニ譲渡スルコトハ常ニ漁業者間ニ行ハレタル所ナルモ斯ノ如キハ有識者間ニ於テハ常ニ攢斥セラレ居タルナリ故ニ政府ハ斯ル漁業者ヲ料料ニ処シ漁場ヲ没収シ又將來ノ漁業權ヲモ奪取シ来リタルナリ斯ノ如キ漁区ノ「スペキユレーション」ヲ自己ノ品位ト極東ノ露人事業トヲ顧ミサル將又租借漁区ヨリ幾何カノ金額ヲ贏得ルコトニノミ腐心シツツアル各小漁業者ニ於テ行フトセハ敢テ怪シムニ足ラサルモ「ツェントロ、ソユーズ」ノ如キ最モ有力ナル機關ニシテ極東露人産業ノ任務ヲ当然理解スルノ義務ヲ有シ且ツ自己ノ資力ヲ以テ漁業ヲ經營スル為其ノ年ニアラサレハ其ノ次年ヨリ一切ノ機關ヲ

ラサルナリ

政府ハ該組合ニ対シ何等圧迫ヲ加フル能ハス何トナレハ同組合ハ地方官憲ニ取り事業上其ノ機關利用ノ為必要ナレハナリ而モ其ノ事業タル恰モ汽船「レギヤ」ニテ国民ノ財産ヲ運搬シ去ルニ等シキナリ

目下「ツェントロ、ソユーズ」ハ各地方ノ「コーペラチーヴ」組合「ゼムストウオ」等ノ先頭ニ立チ沿海州ノ森林租借經營許可方ニ関シ出願中ナルカ之ニ対シ地方官憲カ如何ナル措置ヲ執ルヘキカハ不明ナルモ吾人ハ今回同組合カ国民ノ財産ニ対シ行ハントスル前記漁場同様ノ破廉恥極マル「スペキユレーション」ノ終末ヲ告ケンコトヲ希望シテ已マサルナリ

若シ同組合ニ森林經營權ノ許可ヲ是非与フルノ必要アリトセハ政府ハ同組合ノ約束ナルモノヲ信用スルコトナク必ス義務履行上實際ノ担保ヲ提供セシムルコトヲ要ス何トナレハ同組合ハ既ニ一度其ノ信用ヲ失墜シ居レハナリ吾人ハ露国実行家カ場合ニ依リテハ外国人殊ニ日本人ヨリ借款ヲ為スノ必要アルヲ知ル然レトモ右ハ飽ク迄借款ニ止メ決シテ權利ノ讓渡タラサルコトヲ要ス

沿海州ノ森林經營問題ハ現今極東經濟界ニ最モ重要ノ意義ヲ有ス然ルニ政府ハ右森林区ヲ整然タル企業ヲ為スニ充分ノ資金ナキ諸会社企業家等ニ必要ノ担保ヲモ提供セシメスシテ続々貸下ケツツアリ此結果ハ今遽ニ現ハレサルモ聽テ數十年後ニハ判明スルニ至ルヘク而シテ其ノ時代ニ於テハ現政府当局者ハ既ニ舞台ヲ去リ現官憲ノ失敗ハ凡テ國民ニ於テ始末セサルヘカラサルニ至ルヘシ

エリ、シリニツキー

二九四 五月十六日

松本大藏省主税局長ヨリ
田中通商局長宛

日露漁業協約ニ基ク露領沿海漁業ニ対スル日

本政府ノ方針ヲ各税関ニ通達済ノ旨回答ノ件

附屬書 大藏省主税局長ヨリ各税関長宛

写

藏第四八三三号

(五月十七日接受)

日露漁業協約ニ関スル政府ノ方針ニ付本月四日附通一機密送第四六号ヲ以テ御申越ノ趣了悉右ニ関シテハ別紙写ノ通税関へ通達致置候条御了知相成度此段及回答候也

大正十年五月十六日

大藏省主税局長 松本 重威(印)

外務省通商局長 田中 都吉殿

(附屬書)

大藏省主税局長ヨリ各税関長宛写

露領沿岸ニ於ケル本邦出漁者ノ捕獲採取物輸入ニ

関スル取扱方ニ付通達ノ件

大正十年五月十六日

大藏省主税局長 松本 重威

各税関長殿

露領沿海州及黒竜州ニ於ケル本邦出漁者ノ捕獲採取品輸入方ニ関シ今般別紙甲号写ノ通函館税関長ヨリ伺出有之乙号写ノ通回答致置候ニ付委曲右ニテ御了悉ノ上可然御実行相成度此段申進候也

(別紙)

甲号写

函館税関長ヨリ大藏省主税局長宛甲第五三六号写

露領沿海州及黒龍江州ニ於ケル本邦出漁者ノ

漁獲品輸入方ニ関シ伺出ノ件

甲第五三六号

大正十年四月六日

函館税関長 永井 繁

大藏省主税局長 松本 重威殿

本年三月浦汐ニ於ケル露国政府ノ漁区競売入札ニ際シ本邦漁業家ノ之ニ不参加ナラシメタル事情ノ結果ハ各自自由行動ヲ採ルコトトナリ本年ハ既得ノ漁場ノミニ於テ漁獲ヲ行フヘキ趣ナルモ既ニ漁業協約外ノ行動ヲナスニ於テハ無權利ノ漁場ニ於ケル自由漁獲即チ密漁ノ頻出スヘキハ予測スルニ難カラザルノミナラズ殊ニ遠洋漁業船ヲ幟装シ之ニ罐詰器械類一切ヲ備付ケ隨時隨所ニ於テ漁獲製造ヲ為スカ如キニ於テハ其ノ生産品輸入ノ場合ニ於テハ果シテ(一)協約第十二条ニ依ルヘキヤ將(二)関稅定率法第七条第十九号ノ取扱ヲ為スヘキヤ將又(三)協約第十二条定率法第七条第十九号ノ適用外ニ置キ有税ノ取扱ヲ為スヘキヤ取扱上疑義ニ涉リ候ニ付御意見承知致置度

追而協約外行動ニ対シテハ露国官公吏ヨリ生産原地証明書ノ發給ヲ受クルコト能ハサルハ勿論此場合ニ於テハ明治四十二年十二月関稅局長通牒往第一五八六号露領水産

七 極東露領沿海ニ於ケル漁業關係雜件 二九四

組合証明書發給ノ件モ廢棄セラルルニアラスヤト認め候

乙号写

大藏省主税局長ヨリ函館税関長宛写

露領沿岸ニ於ケル本邦出漁者ノ捕獲採取物輸入ニ関スル

取扱方ニ付回答ノ件

大正十年五月十六日

大藏省主税局長 松本 重威

函館税関長 永井 繁殿

露領沿海州及黒竜江州ニ於ケル本邦出漁者ノ漁獲品輸入方ニ関シ客月六日附甲第五三六号御来照ノ件了悉右ニ関シテハ今般左記ノ通取扱方省議決定候ニ付今後右ニ依リ御実施相成度尚日露漁業協約ニ関スル政府ノ方針決定ノ旨別紙ノ通外務農商務両省ヨリ通報有之候ニ付御詳悉ノ上右ノ趣旨ニ依リ適當御実行相成度此段回答旁申進候也

註 前掲二九二文書

左記

本邦ヨリ露領沿岸へ出漁セル者ノ捕獲採取物輸入ニ関スル取扱方

一 当分ノ内露領沿海州勘察加州及黒竜江州ヘノ本邦出漁者ノ捕獲採取物ハ關稅定率法第七條第十九号ニ依リ取扱フコト

二 出漁以外ノ船舶ヲ使用シ持帰ルモノハ予メ当該出漁者又ハ水産組合ヨリ其ノ積載船舶ノ名称、噸數、航路、船主等ヲ記シタル書面ヲ輸入港稅關ニ提出シ其ノ承認ヲ受ケシムルコト

三 前号物品ノ輸入申告書ニハ水産組合ノ發給スル証明書ヲ添付セシムルコト但シ証明書ヲ添付セサルモノト雖モ稅關ニ於テ本邦出漁者ノ捕獲採取物ト認メ得ルモノハ第一号ニ依リ取扱フコト

二九五 五月十七日 チェルカッスキー氏ヨリ
内田外務大臣宛

オホツク沿岸区域ニ於テ露國人チェルカッス

キー氏租借ノ三漁区保護方ニ付陳情ノ件

陳情書

露領勘察加「オコツク」沿岸漁業家

「エウセイ、キセレウキチ、チェルカッスキー」

極東露國領土分割ニ伴フ「オコツク」沿岸区域ニ於テ一般

候

又日本政府ガ公布セラレタル宣言ニ依テ見ルモ日本臣民ノ前記露領海岸漁区ヲ經營スル權利ヲ認容スルト同時ニ露國漁業家ノ權利ヲ阻碍スルコトヲ絶對ニ禁止シ露國漁業家ニ不安ナカラシメ其租借權ヲ保証シタルモノト承知致候尚溯リテ此陳情ニ重要ナル事實ヲ參考トシテ左ニ可申述候昨一千九百二十年晩秋ニ於テ「オコツク」沿岸ニ於ケル日本漁業家等ハ露國「バルチザン」ヨリ蒙リタル損害ニ對シテ在浦潮斯德總領事ノ手ヲ經テ一千九百二十年年度租借期限満了ノ沿岸漁場ヲ其弁償トシテ三箇年間競争入札ナクシテ租借セシムル權利ヲ附与スルコトヲ露國当局ヘ出願シタル露國当局即チ沿海州庁特別委員會ハ取調ベノ結果事實「バルチザン」ヨリ蒙リタル損害ハ漁場ニ殘留シアリシ漁具及財産殆ンド全部消失及持去ラレタル事實ヲ確認シ一千九百二十一年一月二十五日ノ會議ニ於テ彼等ノ請願ニ對シ左ノ如キ決議ヲ為セリ

日露兩國漁業家ニ於テ「バルチザン」ノ行為ヨリ損害ヲ蒙リタル漁場ニ對シテハ全部競争入札ナクシテ三箇年間該漁場ニ於テ漁業經營スル權利ヲ与フルコト

貸下ゲ漁場海岸区「ウラクスキー」九十八号（ア）、同九十八号（ゲ）、同九十八号（デ）右三箇所漁場ハ先ニ私租借漁区ニシテ期限ハ一千九百二十年ニ終了セルモノニ御座候然ルニ今年度ハ領土分割ニ基因シ毎年浦塩斯德市ニ於テ行フベキ一般貸下ゲ漁区競争入札ハ不履行ニ終リ日露漁業家ハ其漁区ノ新租借權ヲ失フ場合ニ立至リ候

日本政府ハ現今ノ露國ノ狀態ニ鑑ミ且ツ既ニ漁期ハ近ヅキ漁業家ニ於テモ最早ヤ漁業準備ノ時期切迫セル為特別規定ヲ設ケ日本漁業家ニ今年度ニ限リ「オコツク」勘察加沿岸ニ於テ一般貸下ゲ漁区ニ對シ今年度日本漁業家租借中ノモノ及ビ一千九百二十年年度期限満了シタル漁場ニ對シ從來ノ漁業家ニ漁業ニ從事スベキコトノ公布有之候

惟フニ這般公布セラレタル規定ニ對シテ日本政府ノ意嚮ハ応急処分トシ日本漁業家ニ「オコツク」勘察加漁区ニ對シ租借中ノ者ハ勿論一千九百二十年租借期限満了シタルモノニ對シテモ情狀ノ酌量スベキヲ以テ今年度ハ漁業ニ從事スルコトヲ認容シタルモノニシテ一千九百二十年年度經營シタル露國漁業家ノ租借区域ノモノニ關シテハ日本漁業家ニ認容シタル規定ニ準拠シテ平等ニ処理スベキモノト推考仕リ

而シテ同時作成セラレタル黒竜江下流及「オコツク」沿岸ニ於ケル延期租借漁区表中ニ於テ私漁場「オコツク」方面漁区「ウラクスキー」第九十八号（ア）、第九十八号（ゲ）及第九十八号（デ）、三ヶ漁場モ記入セラレ發表ト相成リ候

是ニ依リテ右三ヶ所漁場ハ当然私ノ漁業經營權利ヲ有スル者ナルガ故ニ露國中央金庫ニ其租借料ヲ納入シ露國当局ヨリ漁場權利ヲ確認セラレ候

以上ノ事實ニ依テ見ルニ露國側ヨリ附与セラレタル權利又日本政府ノ宣言ニ鑑ミテ解釈スベキ漁業權利ニ就テ私漁場ガ決シテ他人ヨリ阻碍或ハ權利侵害ヲ受クベカラザルモノト信ジ居リ候

然ルニ意外ニモ茲ニ日魯漁業株式会社ハ現時有力ナル數名ノ日本漁業家ヲ併合シテ主ナル株主中有名ナル漁業家堤清六氏ノ支配人タリシ平塚氏ヲシテ氏ノ隣接漁場ナル私前記租借漁場ニテ投網スベキ設計ナルコトヲ聞キ及ビ候私漁場ヲ隣漁場堤氏ニ於テ經營スルハ都合上容易ニシテ且ツ便利ナルガ故或ハ此噂ハ真実ナルヤ実否ヲ確ムル為私ハ前記支配人平塚氏ニ面会シ今年度貴会社ニ於テ私漁場ニ建網スル

設計ナルヤ及私ノ前記意見ヲ吐露シタルニ平塚氏ハ左ノ如キ意見ヲ以テ今年度該漁場ヲ経営スベキコトヲ確答セリ
当会社ハ露国官憲ノ決議即チ露国ノ附与シタル延期漁業權ヲ認ムル能ハズ唯日露両国民ニ附与セラレタル極東露国一般貸下ゲ漁区ニ於テ漁業スベキ正当ナル權利ニ準拠シ日本露領水産組合ノ決議ニ依リテ私租借漁場ヲ日魯漁業会社ニ於テ経営スルモノナリト言明セリ

私ハ斯ノ如キ無法ナル返答及言明ニ対シテ私ノ正当ナル意見ニテ尚言ヒ争フコトノ無益ナルヲ以テ彼ニ何等返答ヲ与ヘズシテ止ミタリ

斯ル上ハ最早ヤ法律上ノ範圍ニ於テ貴省ニ向ツテ請願スルヨリ外途ナクト存ジ此陳情書ヲ差出シタル次第故何卒貴省ニ於テ御取調べノ上私ノ利害關係ニ於テ正当ナル權利ノ保護及優先權ヲ御認容ノ上日魯漁業会社支配人タル平塚氏ノ企図ヲ中止セシムル事ヲ御命令成被下度願上候
斯ノ如キ平塚氏ノ行動ハ私ノ利益ヲ侵害スルノミナラズ露国主權ノ立法上ノ決議ヲ破壊スルト同時ニ日本政府ノ公布シタル宣言ニ依ル日本漁業家ノ「オコツク」勘察加一般貸下ゲ漁場ノ今年度経営ニ就テハ露国漁業家ノ權利ヲ認メ絶

二九六 五月二十日

在本邦露国大使館ヨリ
日本外務省宛

オホツク海沿岸ニ於ケル露国人チエルカス

キーノ漁業權問題ニ関シ申越ノ件

No. 257

(五月二十一日接読)

Le citoyen russe M. Evsei Tcherkasky, détenteur des lots de pêche "Ourakskie" N N 98-a, 98-g et 98-d situés sur la côte de la mer d'Okhotsk, s'est adressé à l'Ambassade de Russie avec prière d'appuyer auprès du Gouvernement Impérial du Japon la pétition identique qu'il a présentée aux Ministères Impériaux des Affaires Etrangères et d'Agriculture ainsi qu'au Commandant des troupes japonaises dans la région de Sahaline concernant la décision de la Société des pêcheurs japonais d'allouer l'exploitation des mêmes lots de pêche à la Compagnie japonaise Tsutsumi.

Vu qu'en son temps M. Tcherkasky a obtenu des autorités russes la prolongation du terme de bail sur les lots en question et que d'autre part, con-

七 極東露領沿海ニ於ケル漁業關係雜件 二九六 二九七

対ニ彼等ノ權利ヲ侵害スルコトナクシテ漁業ニ従事スベク規定セラレタル神聖ヲ無視スルモノト云フベク又平塚氏ノ証言中日本ノ露領水産組合ノ決議云々ハ如何ナル効力ヲ有スルモノニヤ該組合ハ政事上ノ機關ニ非ズシテ個人的ノ機關トシテ法律上ノ効力ヲ有スルモノト認ムル能ハズ正当ナル權利獲得ハ露国政府ノ日露両国民間ニ競争入札ニ附シテ其公式ナル入札法ニ依リテノミ得タル權利ヲこそ正当ト認ムルモ夫ハ不可能ニ終リシ為今回ノ權利ニ於テハ私ノ前記陳情シタル理由ニ依リテ其漁業權ガ那方ニアルカ御裁決ヲ仰ギ度此段願上候

追而當陳情書ニ対シ御返事ヲ煩ハシ度右御返事ハ恐れ入候ヘドモ私代人東京市赤坂区水川町四番地「コンスタンチン、プロコピウキチ、ラウロフ」宛御送付相成度併テ御願申上候

右「エウセイ、チエルカススキー」

大正十年五月十七日

外務大臣子爵 内田 康哉殿

註 五月十七日「コンスタンチン、ラウロフ」氏本陳情書ヲ外務省ニ持参提出セリ

formément à une déclaration faite par le Consul Général du Japon à Vladivostok, les pêcheurs japonais dans ces parages n'ont été autorisés à prolonger les bails que des lots qui étaient déjà en leur possession auparavant, —la demande de M. Tcherkasky paraît être parfaitement fondée, et la saisie par la Compagnie Tsutsumi ou n'importe quel autre membre de la Société des pêcheurs japonais des lots exploités par le citoyen russe précité doit être considérée comme illégale.

En portant ce qui précède à la connaissance du Ministère Impérial, l'Ambassade de Russie croit par conséquent recommander la pétition en M. Tcherkasky à sa bienveillante attention en le priant de vouloir bien informer l'Ambassade de la suite qui aura été donnée à cette affaire.

Tokio, le 20 Mai 1921.

二九七 五月二十一日

村上農商務省水産局長ヨリ
田中通商局長宛

三二五

哺乳海獸ニ関スル疑義問合ノ件

第六八六号

(五月二十一日接受)

四月二十八日付通一合送第六八一号ヲ以テ露国人ノ海獸獵獲許可ニ関シ御通報相成候処右ノ内海驢以外ノ哺乳海獸獵獲ノ權利ヲ許セル旨記載有之候カ右ノ哺乳海獸トハ如何ナル種類ノ意味ナルヤ参考ノ為承知致度候条可然御調査ノ上御回報相煩度此段及照会候也

追テ本件ニ関スル規程ニ付テハ昨年漁業協議会ニ於テ定メ候趣ニ付右規程ニ付テモ同様御調査相煩度申添候

註 通一合送第六八一号ハ前掲四月十九日在浦潮菊池総領事宛内田外務大臣宛公第九〇号ノ写ヲ参考ノ為田中通商局長ヨリ村上農商務省水産局長ニ送付セルモノナリ

二九八 五月二十一日 田中通商局長ヨリ
露人ラウロフ宛

露国漁業者チエルカッスキーノ漁場保護方願

出ニ対シ回答ノ件

通一普通第五二五号

赤坂区永川町四番地

露人コンスタンチン、プロコーピエウイチ、ラウロフ宛

露国漁業者「チエルカッスキー」ノ漁場保護方願出ノ件回答

本件ニ関シ本月十七日付ヲ以テ「チエルカッスキー」ヨリ外務大臣宛願出ノ趣了成就テハ日露漁業会社ニ於テ實際右願書ニ記載ノ如キ計画ヲ目論見居ルトセバ之ヲ中止スル様説諭方取計置候間此旨出願人へ御伝達相成度此段及回答候也

二九九 五月二十五日

日本外務省ヨリ
在本邦露国大使館宛

露国漁業者チエルカッスキーノ願出ニ係ル漁業權問題ニ関シ回答ノ件

口上書

帝国外務省ハ在京露国大使館ヨリ接受シタル五月二十日付第二五七号口上書ニ対シ左ノ如ク回答スルノ光榮ヲ有ス
露国漁業者「エウセイ、チエルカッスキー」ノ租借ニ係ル「オホツク」海沿岸漁場ニ日本漁業者堤カ本年投網ノ計画ヲ有シ居ルヤノ噂アリトテ頃日前記「チエルカッスキー」ヨリ右計画阻止方ニ関シ直接帝国外務省へ願出アリタルニ付外務省ハ早速堤ノ後継者タル日露漁業株式会社ニ対シ実

三〇一 六月三十日

緒方領事(ウスチ、カムチャートスク出張中)ヨリ
内田外務大臣宛

カムチャツカ河河口附近ノ漁況報告ノ件

勘第一号

(七月十一日接受)

大正十年六月三十日

於「ウスチ、カムチャートスク」

領事 緒方 整肅(印)

外務大臣伯爵 内田 康哉殿

勘察加河河口附近漁況報告提出ノ件

当地付近ニ於ケル五月上旬以降六月末迄ノ漁況不取敢別紙ノ通り報告致候間御査閱相成度此段申進候 敬具

(別紙)

勘察加河口附近漁況

本年当方面ハ漁期ニ際シ天候並ニ海洋状態比較的順調ニシテ又例年ノ如ク流水ノ襲来ナカリシヲ以テ漁業ノ操業上頗ル好都合ナリシト云フ今其漁況ニ関シ大体見聞スル所ニ依レハ本年ハ魚族ノ浜上期例年ニ比シ稍早く既ニ五月下旬ニ於テ紅鮭及鱒ノ介ノ来游アリ次テ六月九日頃ヨリ同魚族ノ群来期ニ達シ爾後六月二十七、八日頃迄継続セリ然レ其本

際前記ノ計画ヲ目論見居ルトセバスノ如キ不当ノ挙ニ出デザル様露領水産組合ヲ経テ警告ヲ与フルト同時ニ此旨目下在京中ノ「コンスタンチン、ラウロフ」ヲ経テ「チエルカッスキー」ヘモ回示シ置ケリ

大正十年五月二十五日

三〇〇 六月二十二日

内田外務大臣ヨリ
在浦潮菊池総領事宛

露国人ガ獵獲ヲ許可セラレタル哺乳海獸ノ種類ニ付調査方訓令ノ件

通一普通第八四号

露国人ノ海獸獵獲許可ニ関スル件

本件ニ関シ大正十年四月十九日付公第九〇号ヲ以テ御報告ノ次第ハ農商務省ニ移牒致シ置キ候処今般同省ヨリ別紙写ノ通り調査方依頼有之候ニ付委細右ニテ御了知ノ上可然御取調御報告相成度此段申進候也

註 別紙ハ前掲五月二十一日附農商務省来信第六八六号(二九

七文書)ト同文ナルニ付省略セリ

年ハ風向並ニ河水波及ノ關係上河口ヨリ東北岸方面ハ思ハシキ群来ナク其結果同方面ニ漁区ヲ有スル北洋漁業会社ハ目下ノ処成績不良ニシテ河川及海上漁区五ヶ所ノ漁獲高並ニ買魚ヲ合セ僅ニ紅鮭罐詰約四万函ヲ製造シタルニ過キス之ニ反シテ河口ヨリ西南方面沿岸ニ瀕スル日魯漁業会社ノ漁場七ヶ所ハ「カムチャートカ」河ノ水流ニ面シ位シ居ルヲ以テ自然魚類ノ群来多ク何レモ予期以上ノ好成绩ヲ収メタリ從テ同会社経営ノ漁場七ヶ所及罐詰工場二ヶ所ハ一時ハ殆ント昼夜兼行就業シタル有様ニテ漁獲物ハ殆ント凡テ罐詰ト為シ前記二ヶ所ノ工場ニテ約十三万函ヲ製造シ既ニ本年ノ予定製造高ヲ超過スルコト約二万函ニ及ヘリト云フ尚現在ニ於テハ紅鮭及鱒ノ介ノ盛漁期既ニ經過セルモノノ如ク今後夏鮭及銀鮭ノ浜上ヲ期待セラレツツアリ

三〇二 七月十二日 在浦潮菊池総領事ヨリ
内田外務大臣宛

極東漁業協議會解散ノ件

公第一四七号 (七月十八日接受)

大正十年七月十二日

在浦潮斯德

漁業会社漁場ニ立寄リタル処改良網ヲ使用シ居リシニ付漁場主任ニ対シ其ノ反則ナルコトヲ詰リタル処之ヲ聴カサリシニ付警告ノ為発砲スルノ已ムヲ得サルニ至リタル次第ヲ語リ本邦出漁者ノ反則防遏ニ対シ本官ノ援助ヲ求メタルニ付本官ハ我出漁者ガ漁業規則ヲ遵守スルコトヲ要スルハ勿

總領事 菊池 義郎(印)

外務大臣伯爵 内田 康哉殿

今般臨時沿海黑竜政府ノ命令ニ依リ極東漁業協議會ハ解散セラレ「アレクシン」氏漁業庁長ニ命令セラレタルトロ同氏辞任シタルヲ以テ其後任トシテ「パーウエル、アンドレーウイチ、ルサーノフ」氏任命セラレ候同氏ハ元「ブラゴウエシチェンスク」ニ於テ移民官トシテ又最近ハ沿海州「ゼムストウオ」ニ勤務シ其代表者トシテ漁業協議會ニ参列シ居タル者ナル趣此段及報告候 敬具

三〇三 八月十三日 在ベトロパウロフスク山口領事ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

露国漁業検査官ヨリ本邦出漁者ノ反則防遏ニ

付援助ヲ求メタル件

第四七号 (八月二十日接受)

八月十二日「メルクローフ」政府ノ派遣ニ係ル汽船「マグニット」西海岸ヨリ入港セリ同船ニハ漁業監視ノ為漁業検査官「ノワコフスキイ」ナル者搭乘シ当市及「コマンドルスキエ」群島ヘノ糧食ヲ搭載シ居レリ「ノワコフスキイ」ハ同日本官ヲ来訪シ西海岸「コシ(不明)コエック」日露

論ノ義ナルガ同人ノ要求ニ応シ直ニ何等カノ援助ヲ与フルコトハ困難トスル所ナル旨答ヘ置ケリ尚「マグニット」ハ「コマンドルスキエ」群島ヨリ東海岸漁場ヲ巡視スル筈ノ処本邦人漁場ニハ何レモ改良網ヲ使用シ居ル由ニ付又々何等カノ紛擾ヲ起サザルナキヤト懸念セラル(十三日)